



大阪市会だより

平成21年12月

会派別議員数 11月18日現在
定数89人(欠員1人)

自由民主党・市民クラブ 32人
公明党 20人
民主党・市民連合 20人
日本共産党 16人

平成20年度公営・準公営企業会計決算を認定

9月・10月市会定例会



【本会議】採決の様様

大阪市会では、平成20年度の公営企業会計(バス、地下鉄・ニュートラム、水道、工業用水道)及び準公営企業会計(市民病院、中央卸売市場、港営、下水道)の決算報告などを審議する9月・10月定例会を9月17日から10月15日まで開きました。決算報告については、9月17日の本会議において決算特別委員会を設置し、その審査を経た後、10月15日の本会議において賛成多数により認定しました。

また、9月17日の本会議では、国の緊急経済対策に伴う補正予算案を賛成多数により附帯決議(P11に掲載)を付して可決しました。このほか、この定例会では、「改正貸金業法の早期完全施行等に関する意見書案」や「天皇陛下御即位二十年を祝す賀詞に関する決議案」などの案件を議決しました。

市会の動き

9/9 [招集告示]

9/11・14・15 各常任委員会
(案件の事前調査、請願書・陳情書の審査など)

9/17 各常任委員会(採決)
<開会> 本会議
(決算の市長説明、決算特別委員会の設置など)

9/18 決算特別委員会(説明)
24 / (実地調査)
28~10/2 / (質疑)

10/8・9・13 各常任委員会
(案件の事前調査、請願書・陳情書の審査など)

10/15 決算特別委員会(採決)
<閉会> 本会議
(決算の認定、意見書・決議案の議決など)

議案の審議

決算の認定

~決算特別委員会の質疑から~



小笹決算特別委員長

決算特別委員会では、9月28日から5日間、各委員がさまざまな観点から質疑を行いました。そのおもな内容を10月15日の本会議で行われた決算特別委員長の小笹の審査報告をもとに紹介します。

決算特別委員会委員

| | | |
|------|------|--------------------|
| 委員長 | (公明) | 小笹 正博 |
| 副委員長 | (公明) | 高山 仁 (民主) 田中 ひろき |
| 委員 | (自民) | 大内 啓治 有本 純子 井上 英孝 |
| | | 北野 妙子 山下 昌彦 川嶋 広稔 |
| | | 木下 誠 加藤 仁子 新田 孝 |
| | (公明) | 八尾 進 高橋 諄司 漆原 良光 |
| | (民主) | 西岡 剛 長尾 秀樹 山崎 誠二 |
| | | 小林 道弘 |
| | (共産) | 上野 とき子 清水 忠史 渡司 考一 |
| | | 稲森 豊 |

交 通

| 事業 | 収益 | | 費用 | | 差引 | | 平成20年度 △未処理欠損金 | |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------------------|-------|
| | 億 | 万円 | 億 | 万円 | 億 | 万円 | 億 | 万円 |
| バス | 217 | 9,018 | 223 | 4,761 | △5 | 5,743 | △561 | 8,387 |
| 地下鉄・ ニュートラム | 1,695 | 8,933 | 1,571 | 7,130 | 124 | 1,803 | △341 | 6,119 |

問 交通事業の決算概要は

答 バス事業は、前年度と比較し9億4,700万円収支は改善していますが、なお5億5,700万円の赤字となり、累積欠損金は561億8,400万円となっています。

地下鉄事業は、前年度と比較し101億2,300万円収支が悪化したものの、124億1,800万円の黒字となり、累積欠損金は341億6,100万円となっています。

問 バス事業の「アクションプラン」(案)は

答 バス事業は、これまで様々な手

法を用いて経営改善の取り組みを進めてきましたが、依然として厳しい経営状況であることから「アクションプラン」(案)を策定し、中長期的に収支の均衡を図ることをめざした施策の考え方を打ち出しました。その中で、廃止対象路線の需要については、一般バスの路線再編の中で、できる限り集約、吸収しますが、集約が難しい箇所については、地域の移動ニーズに対応した移動手段のあり方について、北山副市長を座長に、関係局で構成するワーキングチームを設置し、検討を進めています。

水 道

| 事業 | 収益 | | 費用 | | 差引 | | 平成20年度 △未処理欠損金 △未処理利益剰余金 | |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|--------------------------------|-------|
| | 億 | 万円 | 億 | 万円 | 億 | 万円 | 億 | 万円 |
| 水道 | 769 | 2,658 | 643 | 7,492 | 125 | 5,166 | 210 | 7,011 |
| 工業用水道 | 20 | 3,338 | 16 | 8,430 | 3 | 4,908 | △19 | 7,300 |

問 水道事業の収支状況と今後の見通しは

答 給水収益が減少傾向で推移する中、事業全般にわたる経営の効率化を進め、経費の削減に努めてきたことから、125億5,200万円の黒字となっています。しかし、給水収益の減少に歯止めがかかることは期待できない状況にあり、また企業債残高が多額であることから高水準での償還が続くため、今後もさらなる人件費や物件費の削減に努めるとともに、企業債発行の圧縮などの経営改善に取り組んでいきます。

問 水道事業の国際展開は

答 国において、国内外の水問題解決に向けて行動する「チーム水・日本」等の組織が立ち上げられ、水ビジネスの国際展開推進の動きが具体化されており、水道局としても、国際的な事業展開に向けた取り組みを活発化していきます。さらに、優れた技術を持つ市内水関連企業との官民連携による国際展開を一つの突破口にして、大阪市ひいては関西の経済活性化を図っていきます。